

症例検討会

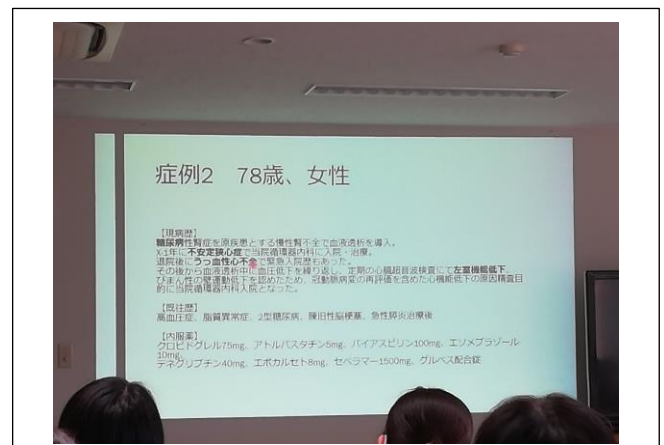
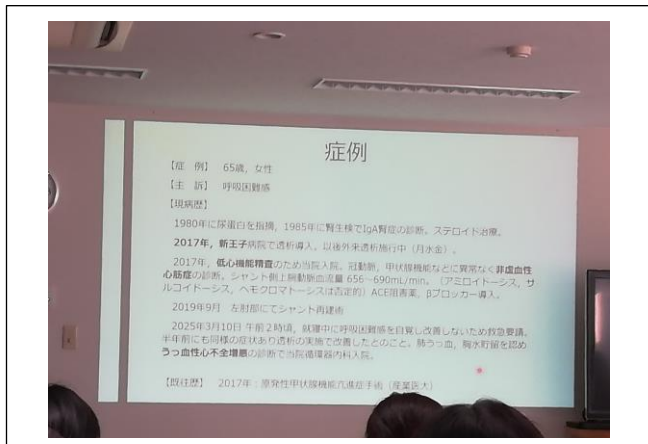
日時：R7年 6月 17日(火) 17時より開始

場所：新王子病院 4F 会議室A

講師： JCHO九州病院腎臓内科部長 田村 恭久先生

テーマ： 心不全の発症にシャント血流量が影響している可能性が考えられた

血液透析の一例(T・Y氏の経過)



今回は、心不全増悪の原因がシャント過剰血流によるものと考えられる症例でした。今回の講義内容も、関心度が高く多くのスタッフが参加されていました。

当院透析患者の T・Y 氏の経過・検査・治療・今後の対策まで詳しく講義して頂きました。今後の対策としては、細いバルーンでの PTA 施行・シャント縫縮をすることによって頻回の PTA になるかもしれないが、シャント流量の調整をし、心機能の保持に努めるとの事でした。

また、一般的なシャント過剰血流の定義や症状・治療方針をわかりやすく講義し、その後 6 例の症例を説明して頂きました。

過剰シャント血流による左室収縮機能不全は、シャント血流量/心拍出量($\geq 20\%$)と関連しており、左室収縮機能不全の独立した予後予測因子であり、どちらも超音波検査にて測定・推定できるため、左室機能低下をスクリーニングすることは可能との事でした。